東 御 市 立 和 小 学 校

（１）学級数　学級数　１７クラス

（２）児童数　男子２５１名　女子２２１名　計４７２名

（３）職員数　３２名

（４）学校紹介

http://www.ueda.ne.jp/~t-kanou/

本校は、北に烏帽子岳を仰ぎ見、南に千曲川を見下ろす高台に位置する。校区内には浅間山麓広域農道（通称浅間サンライン）が走り、東御市が全国出荷量１位を誇る名産品・巨峰の畑が一面に広がる。

本校の歴史は古く、明治１２年、近隣の共立学校を統合し、和学校として出発したのが始まりである。開校当時の「われらの学校」と、学校をとても大切にする地域性と、地域と連携・融合・一体化した教育活動を展開する校風は、開校１２９周年を迎える今日まで、脈々と受け継がれている。

本校の教育目標は以下のとおりである。

１　つよく（心と体を鍛える）

①　ねばり強い心と丈夫な体をつくる。

②　自分から気づき、汗を流して活動する。

２　かしこく（進んで学び、深く考える）

①　聞く・話す・読む・書く等の学力向上を図る。

②　自分の考えを伝え合う学習に、主体的に取り組む。

３　あたたかく（思いやる）

①　相手の気持ち・考えを理解し助け合う。

②　だれとでも明るく挨拶する。

以上を具現すべく展開される、本校の特徴的な行事や活動として、校庭に設置された土俵を使っての「全校相撲大会」や、地域の方々を講師に迎えて、全校縦割りのグループで楽しい学びの講座を受ける「ドリームかのう」、児童会を中心に姉妹学級のなかよしペアで活動する「全校なかよし集会」や「なかよしタイム」などがあげられる。

地域の方々にも支えられながら、これらの活動の中で、伸びやかに育つ和の子どもたちである。

（５）大会テーマの受け止めと研究のねらい

本校では、①自ら求め、人・もの・ことと関わり合いながら喜びを持って意欲的にねばり強く追求する姿　②自分の思いをのびのびと表現する姿　③生涯にわたってよりよく生きようとする姿　の三点の実現を願って研究を進めている。これをもとに、全校研究テーマを「学ぶ喜びを知り　自ら学び　自ら解決していく子どもの育成」としている。このテーマを実現するために、授業における題材設定・指導過程の工夫・評価等の点について手だてを考え、日々の実践を行っている。今回、公開を予定している授業（特別活動における健康教育）では、自分の体に目を向け、体に備わった働きを知ることで、体の素晴らしさに気づき、健

康の保持増進への意識を高めて欲しいという願いを実現したいと考えている。そこで、題材（子どもが興味を示しやすい物）としては、健康のバロメーターともいえる「便」に視点をあてている。指導過程においては、養護教諭（専門的な立場からの情報）と、学級担任とのＴＴの形態を考えている。更には「便」についての視覚的な映像（ＤＶＤ）を視聴するとともに、「便」のでき方を手作り教材を用いて視覚的に確認したりする場も考えている。

担任以外の者からの指導や、普段はあまり意識しない部分に目を向ける（広い視野）ことや、耳からの情報だけでなく、視覚的な情報も取り組むことで、これから直面するであろう様々な事象に対して、それまでの経験を生かしながら、そのものに対する見方考え方が広がってくると考える。また、それが基本となって、大会主題にもある心豊かな人間が育成されてくるのではないだろうか。

（６）日常的な活用

〇コンピュータ・ネットワーク関連

現在、パソコン教室にデスクトップ型３５台・ノート型３台と、各教室に１台ずつのノート型が配置されている。これらはすべてＬＡＮでつながっており、サーバーを介してのインターネット接続やファイル・フォルダの共有がなされている。

ウェブ・ブラウザを開くと、全機とも全教科にまたがった学習用のリンク集がスタートページに設定されており、そこから各自知りたいことや調べたいことの載っているウェブページにジャンプすることができるようになっている。

管理面として、パソコン室の教師機で児童機を一元管理できる「SkyMenu」や、有害サイトへのアクセス制限をかける「Inter Safe」が導入されている。

〇視聴覚機器関連

プロジェクター５台（内１台は CCD カメラ搭載）が配置されており、それらを活用してデジタルデータや紙ベースの教材や作品を拡大提示して授業を行うことが多い。

やや旧式化してしまったが、使い勝手のよい FD タイプの児童用デジタルカメラも８台あり、グループごとに観察写真を撮ってきたり、調べたことのまとめ新聞に活用したりしている。

本年度より地上デジタル放送対応の DVD レコーダも導入され、より幅広い活用法を研究中である。

（７）研究を推進してきての現時点での課題

前年度の情報教育の研究から、子どもたちにとって、視聴覚機器の特性を生かした情報は大変興味深く、意欲的に情報を得ようとする傾向があるようである。やはり、言葉だけではイメージしにくく、意欲が持続しない面がある。また、言葉の受け取りが一人一人の子どもによって違うこともあり、教師が伝えたいことの内容の受け取りが個々によって違ってしまうこともある。これらのことを考えると、視聴覚機器は、子どもたちにとっても、教師にとっても大変有益な道具である。

これら視聴覚機器による情報提供や活用場面の工夫によって、学習効果は高まり、子どもたちの物事に対する見方・考え方が広がっていくのだと考える。そのためには、事前に情報を準備したり、機器を準備したりすることが必要であるが、最近の機器は、専門的な知識や技能がないと扱えない物がある。機器の操作については、日頃から教師側が積極的にその方法を習得しておくと同時に、情報提供しようとするソフトの管理についても、全職員が利用しやすいように管理しておく工夫が必要である。